

発達障害者におけるテストアコモデーションに関する研究（2）

—試験時間延長効果における ASD 者と定型発達者の比較—

○立脇洋介¹ 面高有作¹ 横田晋務¹ 鈴木大輔² 稲田尚子³ 大野愛哉^{4,5} 脇浜幸則⁴ 田中真理¹¹九州大学 ²東北大学 ³帝京大学 ⁴九州大学大学院 ⁵日本学術振興会特別研究員

KEY WORDS: 発達障害 テストアコモデーション 時間延長

【問題と目的】

入学試験や資格試験におけるテストアコモデーションの 1 つとして、テスト時間の延長が実施されている。しかし、時間延長の妥当性や公平性に関しては、多くの議論がなされてきた。例えば Phillips (1994) は、同じアコモデーションによって、障害のない人よりも得点が増えれば妥当であると説明している。さらに、時間延長の効果は、障害の種類や教科や学力など様々な要因によって規定されることが示唆されている（藤芳, 2002, Mandinach et al., 2005, 立脇, 2012）。そこでセンター試験の英語の問題を用い、ASD ならびに TD を対象に、試験時間延長に関するテストアコモデーションの効果を検証する。

【方法】

対象・方法の概要については連番発表(1)の通り。本研究では、学力テスト実施時に測定した「テスト得点」「テストの結果の自信」「解答時間の適切性」を分析に使用した。ASD 群と TD 群に関して、通常条件と延長条件の各変数の得点を比較した。

【結果】

①**テスト得点** ASD 群の平均得点は、通常条件が 70.3 点、延長条件が 72.2 点であった。一方、TD 群の平均得点は、通常条件が 93.0 点、延長条件が 92.1 点であった（Table 1 参照）。どちらの群もセンター試験本番より、平均点が低かった（通常条件 118.9 点、延長条件 119.2 点）。ASD 群と TD 群のテスト得点の累積比率を時間条件別にまとめた結果を Fig. 1 と Fig. 2 に示す。ASD 群も TD 群も、通常条件と延長条件は類似した分布を示した。

②**時間延長の効果** 時間延長の効果を検討するために、時間条件（通常・延長）を独立変数とし、テスト得点、テスト結果の自信、解答時間の適切性を従属変数とする、対応のある t 検定を実施した。ASD 群と TD 群で N が大きく異なっていたため、両群は分けて分析した。結果を Table 1 に示す。テスト得点、テスト結果の自信については、両群ともに有意な効果は見られなかった。時間の適切性は、TD 群のみで有意な効果が見られ（ $p < .01$ ）、延長したほうが、時間がやや余ったと回答していた。

累積比率

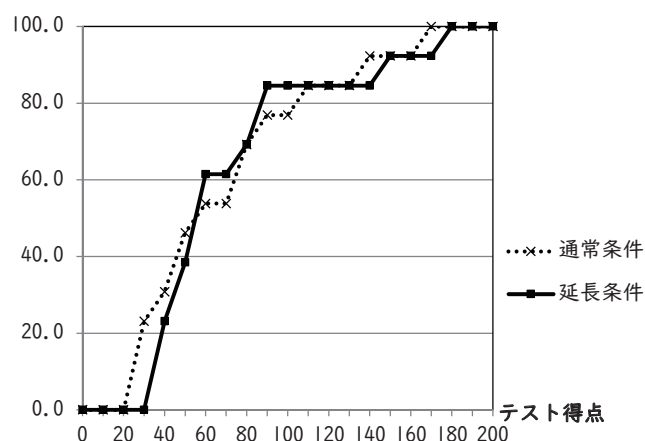


Fig. 1 累積相対度数分布 (ASD)

Table 1 時間延長の効果（対応のある t 検定）

対象	時間	TD (N=58)		ASD (N=13)	
		通常	延長	通常	延長
得点	M	93.0	92.1	70.3	72.2
	SD	(33.6)	(39.1)	(43.3)	(42.5)
	$t(df)$	0.30(56)		0.35(12)	
自信	M	2.02	2.04	2.15	1.92
	SD	(0.74)	(0.96)	(1.21)	(1.19)
	$t(df)$	0.15(56)		1.90(12)	
時間	M	2.67	3.63	3.31	3.77
	SD	(1.01)	(1.05)	(1.49)	(1.30)
	$t(df)$	7.42(56)**		2.14(12)	

** $p < .01$

【考察】

ASD 群、TD 群ともに時間延長によって、時間が余ると感じるようになるものの、テストの得点は変化しなかった。これは TD の大学生を対象に時間延長の効果を検証した立脇 (2012) と同様の結果である。原因として、以下の二つが考えられる。第一に、今回の参加者は通常の時間内で十分に解答できた可能性が考えられる。時間延長は、正解は分かっているものの、時間が足りないために解答できない場合に、効果的である。しかし、延長条件においてもセンター試験の本番の平均点より得点が低かった。つまり、問題が難しかったために、解答が分からず、延長の効果が現れなかった可能性が考えられる。さらに延長は全員に得点の上昇をもたらすのではなく、例えば書き障害のように試験に関わる特定の作業において時間が通常以上にかかる人にとって有益な可能性が考えられる。そのため、時間延長によって得点が増えた人の特徴を個別に分析したり、ASD 者にとって効果的な時間延長以外のテストアコモデーションを検討したりすることが必要である。

本研究は科学研究費補助金の助成を受けた (JSPS KAKENHI Grant Number 18H01090)。

(TATEWAKI Yosuke, OMODAKA Yusaku, YOKOTA Susumu, SUZUKI Daisuke, INADA Naoko, OHNO Aikana, WAKIHAMA Yukinori, TANAKA Mari)

累積比率

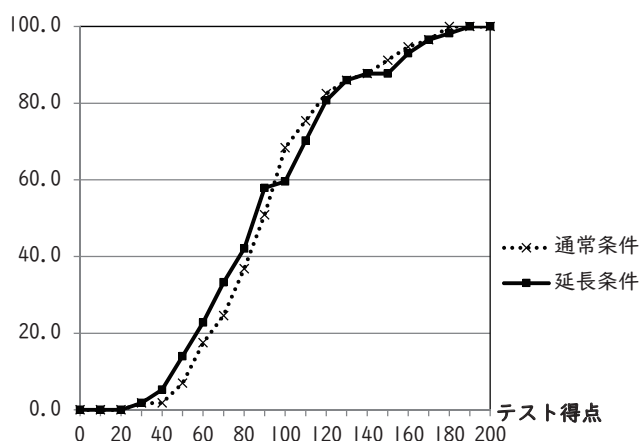


Fig. 2 累積相対度数分布 (TD)